

今秋、国内最大級のホメオパシーイベントをつくばで開催！ **～人はなぜ病気になるのか、人はなぜ治るのか～** **自己治癒力を触発するホメオパシーで治癒に導かれた臨床症例を公開！**

日本ホメオパシー財団 日本ホメオパシー医学協会(以下JPHMA)は、2010年9月25日、26日の2日間、JPHMA第11回年次学術大会(コンGRESS)を茨城県のつくば国際会議場で開催します。昨年の京都国際会議には約850名の方が参加して100ケースに及ぶ発表を行い、盛況のうちに閉幕しました。11回目を迎える今年度コンGRESSでは、由井寅子会長や、全国で活躍するJPHMA認定ホメオパス(同種療法士)が、ホメオパシーにより治癒に導かれたケース(臨床事例)を学術発表致します。

さらに、世界28ヶ国のホメオパシー協会をひとつに束ねるホメオパシー国際評議会(ICH)のグウィネス会長(ニュージーランド)、欧州ホメオパシーの発展に大きく貢献しているスティーブンICH秘書官(イギリス)が、世界におけるホメオパシー取り組みやその拡がりについて講演致します。また、セントマーガレット病院(千葉県八代市)にて統合医療の推進を担当している外科医師 酒向猛氏をはじめ、国内医療関係者や各分野の専門家とも連携し、今まで以上の充実した発表プログラムを実現しました。

現在ホメオパシーは政府の統合医療の積極推進方針の下、厚労省プロジェクトチームでの検討対象の16代替医療のひとつにも挙げられており、自閉症や発達障害、自己免疫疾患など現代医学でも難治とされる分野においても、様々な症状を癒す自然療法として注目されています。心と身体の健康を取り戻すホメオパシーの可能性を多くの方に知って頂くため、JPHMA会員以外にも広く一般に公開して開催しております。

■プログラム概要

- ・ホメオパシーの現状と欧州での取り組み:ICHスティーブン秘書官
- ・世界のホメオパシーが手をつなぐ時代へ:ICHグウィネス会長
- ・難治疾患、小児におけるホメオパシーの活用:JPHMA会長由井寅子
他、医療関係者、自然療法分野の専門家による記念講演
JPHMA認定ホメオパスによるワークショップ、多様な臨床事例発表。
- ・パネルディスカッション:ホメオパシー統合・融合医療の時代へ
→ホームページにて随時最新情報を公開しています。

「JPHMA コンGRESS」で検索してください。



■ホメオパシー(同種療法)とは:ホメオパシーとは今から約200年前ドイツ人医師ハーネマンが確立させた自然療法です。症状を抑圧する対症療法とは異なり、症状は体からの大切なメッセージと考え、症状の奥にある根本原因を探り、レメディを用いて治癒へと導く原因療法です。英国王室の健康法としても知られ、欧米やインドなどを中心に世界で10億人以上がホメオパシーに取り組んでおり、補完・代替医療の主流となっております。日本ではこれまで14年間にわたり、本校学長由井寅子指導のもと、ホメオパシー専門家養成教育、及び一般の方々へ普及が行われ、急速に普及が進みました。現在では海外のみならず日本でも多くの著名人がホメオパシーを健康法として活用しています。
(*)レメディ:「超微量の法則」に基づき、植物や鉱物などを高度に希釈した液体を小さな砂糖の玉にしみこませたもの。

マザーチンクチャー:フレッシュハーブから作った健康酒

■日本ホメオパシー医学協会について:日本ホメオパシー医学協会(略称JPHMA、会長:由井寅子)は日本におけるホメオパシー医学の正しい普及と発展、並びにその研究、国際協力を通じて広く社会に貢献することを目的に1998年に設立されました。また、JPHMAは世界28ヶ国が加盟するホメオパシー国際評議会(ICH)日本代表でもあり、日本で唯一ICHガイドラインに基づくホメオパス職業保険を運用する団体です。既に550名のJPHMA認定ホメオパスが全国250以上のセンターで活躍しております。また認定普及団体「とらのこ会」の会員は既に家族会員を含め4万人を超えています。

JPHMA第11回年次学術大会にご興味を持って頂けましたら、同封のご招待状にご記入の上、Fax:03-5779-7412までご返信ください。またホメオパシーに関してご質問等ございましたら、下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー(CHhom)東京校内 第11回JPHMAコンGRESS事務局

〒154-0001 東京都世田谷区池尻2-30-14 Tel:03-5779-7411 Fax: 03-5779-7412 E-mail:office@jphma.org

<http://www.jphma.org/congress2010/>

「JPHMA コンGRESS」で検索してください。